

百世不磨



創立者平生鈺三郎の教えを礎に積み重ねる「甲南教育」を
永遠に消えることなく、存在し続けるさまを表す
「百世不磨」という標題にたとえ紹介いたします。



2019年4月、甲南学園は創立100周年を迎えます。



「常二備へヨ」

この一言に込めた平生鈺三郎の思い

甲南大学名誉教授
平生鈺三郎日記編集委員会委員長 藤本 建夫

「天災は忘れた頃に来る」。物理学者寺田寅彦の警句である。
甲南学園はまもなく百周年を迎えるが、これまでに二度、大自然災害にあっている。昭和13年7月5日に阪神地方を襲った豪雨は住吉川の堤防を決壊させ、濁流は甲南小学校を呑み込んだ。戦時下という厳しいなか、昭和18年7月5日、鉄筋コンクリートの新校舎が完成し、学園創立者平生鈺三郎の「常二備へヨ」の石碑に刻まれた言葉とともに、落成式を迎えた。
甲南学園にとって予言ともとれるこの言葉は現実となる。平成7年1月17日早朝、阪神淡路地域は突如激震に襲われ、かつて旧制甲南高校時代に白垂城と呼ばれたあの風格ある甲南大学の建物までも無残に破壊された。だが復興はめざましく、平成9年4月には新たな1号館前にもシンボリックに「常二備へヨ」の碑が建てられ、昨秋には学生のための複合施設「iCommons(アイコムズ)」が竣工するなど、キャンパスはさらに進化をつづけている。

大震災から23年。いま深刻化する地球温暖化で局地的豪雨が頻発し、地下ではマグマが不気味な動きを見せ、南海トラフ地震の脅威もよそ事ではない。甲南学園は二度の大災害を、多くの人々の支援を得て克服できたからこそ現在があるのだが、またいつ二度目に遭遇するかもしれない。しかし甲南学園は、平生鈺三郎の格言「常二備へヨ」を忘れることなく、これからの不確かな時代を、学生たちとともに力を結集して立ち向かって行かなければならない。



甲南大学 甲南高等学校 甲南中学校
広報部：〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 TEL.078-435-2314